

事務連絡

平成 29 年 12 月 18 日

国立研究開発法人水産研究・教育機構
西海区水産研究所 資源海洋部

シンポジウム「東シナ海・日本海におけるサバ類の資源研究：現状と将来展望」開催について

2018 年 1 月 23 日(火)に、サバ類の資源研究に関するシンポジウム(別紙)を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

日時 2018 年 1 月 23 日 10 時 30 分～18 時 00 分

(開場 10 時、これ以前は美術館入口が開いていません)

場所 長崎県美術館 講座室(2F 入場無料) <http://www.nagasaki-museum.jp/>

〒850-0862 長崎県長崎市出島町 2 番 1 号 TEL:095-833-2110

出島電停(路面電車)から徒歩 3 分、市民病院前電停(路面電車)から徒歩 2 分

JR 長崎駅から徒歩 15 分

懇親会 シンポジウム会場周辺にて開催予定

参加申込 当日参加も歓迎しますが、会場準備のため、参加される方は、1 月 16 日までに主催者・黒田啓行までメール(kurota@affrc.go.jp)にて連絡してください。メールには、「氏名」、「所属」、「懇親会への出欠」を明記してください。

問い合わせ先

〒851-2213 長崎市多以良町 1551-8

水産研究・教育機構 西海区水産研究所

資源海洋部 浮魚資源グループ 黒田啓行

TEL:095-860-1651(直)、FAX:095-850-7767(代)

e-mail: kurota@affrc.go.jp

別紙

シンポジウム「東シナ海・日本海におけるサバ類の資源研究：現状と将来展望」

日時 2018年1月23日 10時30分～18時00分

場所 長崎県美術館 講座室(長崎市出島町2番1号)

東シナ海、日本海において、マサバはマアジ、マイワシなどと並ぶ重要な漁業資源である。近年、主漁場の変化や外国船による漁獲の影響など、資源評価や管理を取り巻く状況は大きく変わりつつある。一方、当海域のサバ類の資源研究は、研究者個人レベルの活動にとどまり、資源全体を見通す機会に乏しい。そこで、個々の研究成果を統合し、研究全体を加速させるために、様々な分野の関係者が一堂に会し、これまでの資源研究のレビュー及び今後の研究戦略について検討する。発表は1題20分の予定である。

- はじめに
 - 東シナ海・日本海におけるサバ研究の現状(西水研・黒田啓行)
- 漁業の変遷、現況
 - 東シナ海におけるマサバを対象とした大中型まき網漁場の経年変化(西水研・安田十也)
 - 日本海におけるマサバ漁業の現況(鳥取水試・田中秀一)
- 分布、回遊、系群、標識放流
 - 東シナ海・日本海におけるマサバの遺伝的特徴(長崎大・山田明徳)
 - 対馬海峡におけるバイオロギングを用いたマサバの行動計測(西水研・安田十也)
- 成長、成熟、卵稚仔、加入量変動
 - マサバ対馬暖流系群の成長、成熟、産卵場(中央水研・由上龍嗣)
 - 日本海を中心とした近年のサバ類の産卵量と卵、仔魚の分布(日水研・後藤常夫)
 - 東シナ海におけるサバ属仔魚の分布と成長の年変動(西水研・佐々千由紀)
- 餌料環境、海洋環境
 - 東シナ海・日本海西部のサバ類仔稚魚の餌料環境(西水研・北島聡)
 - 東シナ海から日本海西部にかけての水温環境変動(西水研・山田東也)
- 資源評価、資源解析
 - 時系列解析によるマサバ資源量の変動要因の把握(西水研・向草世香)
 - マサバ対馬暖流系群の資源評価結果の変遷とその問題点(東京大・平松一彦)
- コメント・議論
 - マサバ太平洋系群との比較から(中央水研・由上龍嗣)
 - マアジ対馬暖流系群との比較から(西水研・依田真里)
 - 東シナ海・日本海のサバ研究をこれからどうするか?(司会 西水研・黒田啓行)